



# FUKUSHIMA 市民インタビュー

このコーナーでは、福島市のさまざまな分野で活躍する人や団体を紹介します。今回は、吾妻山の自然を次の世代へと伝えるために、自然環境の保全活動に取り組み、市山岳遭難救助隊員としても活動している吾妻山自然倶楽部会長の清野義美さんにインタビューしました。

## ❖ 発足のきっかけは？



吾妻山自然倶楽部  
会長 清野 義美さん

吾妻山の登山道に木道が整備される前、踏みつけなどによる植物の消失や土がむき出しとなり土砂が流出するなど、荒廃が進行していました。その姿を見て、山岳会の仲間内で、このままでいいのかという話を何度もしていました。そこで一度集まって、何かできないかと平成15年12月に会員6人当時で発足しました。

## ❖ 活動内容は？

活動場所は、浄土平から酸ヶ平、姥ヶ原、東吾妻山、少し離れた東大巓などです。丸太による土砂止めや麻製の植生ネットの上にヒメスゲなどの種をまいたり、移植して荒れ地に植物が根付きやすい環境をつくる活動をボランティアの方々協力して取り組んでいます。

## ❖ 吾妻山の魅力は？

一見、針葉樹林に覆われた地味な山と思われが

ちですが、日本で有数の広さを持つ弥兵衛平など多くの高層湿原がありま

## ❖ これからの活動は？

ふるさとへの活動は、



▲登山道沿いに麻製の植生ネットを張って、ヒメスゲの植生復元作業に取り組む

うと、引き続き登山道や植物が根付く環境を整備していきます。私たちの活動は、スポーツで例えるならグラウンド整備です。借りたグラウンドは、終わればならぬ。登山は登りっぱなし。他のスポーツと同じように整備にもっと関心を持ってもらいたいですね。ふるさとへの活動は、自分には何が出来るか。私は、初めて出会う登山者と話す際には、自分のふるさとへの山を伝えてみてくださると伝えていく。その意識を普及させて仲間を増やしたいですね。最後に山岳遭難救助隊として、登山する際には万が一のことを考え、必ず登山届を書いてから登山をお願いします。



## We Love ♥ ふくしま！

### 第7回「古関裕而さんを生かしたまちづくり」

6月11日、天皇皇后両陛下が古関裕而記念館にご来館。館内では、古関さん作曲の1964年東京オリンピックの入場行進曲である「オリンピック・マーチ」や、「長崎の鐘」を懐かしまれていました。古関メロディは両陛下にも染み入っているのですね。

古関さんは福島市大町生まれ。旧制福島商業学校(現福島商業高等学校)在学中に音楽家への夢を膨らませました。

生涯の作曲数は5千以上。早稲田大学応援歌「紺碧の空」、慶応大学応援歌「我ぞ覇者」、巨人・阪神の応援歌(あの「六甲おろし」も)、JR福島駅ホームに流れる夏の甲子園でおなじみの「栄冠は君に輝く」、「高原列車は行く」も古関さんの作品です。

校歌も多く、市内小学校8校、中学校6校、高校3校は古関さんが作曲。市外ですが、私の出身中学・高校も古関さんの作品でした。

古関さんは、昭和54年福島市名誉市民第一号に推戴されました。JR福島駅東口のオルガンに向かう銅像の表情は、どこか親しみのある古関メロディを思い起こさせます。

今、福島市では、2020東京オリンピック・パラリンピック競技大会を機に、古関さんと妻・金子さんの生涯をNHK朝の連続ドラマにしようと運動を続けています。市民の盛り上がり金子さんの出身地・豊橋市などとの連携で、ぜひ実現させたいものです。

一方、作曲家としての活躍の場は東京であり、ドラマ化されても「福島」がドラマのシーンにあまり登場しないことも想定しなければなりません。



▲JR福島駅東口の銅像

今後、「古関裕而=福島市の誇り」をもっと市内外にアピールすること、まちづくりに生かしていくことが必要です。

福島商工会議所青年部は2020東京オリンピック・パラリンピック競技大会の2年前となる今年7月に特設楽団を結成し古関メロディを奏でました。古関メロディをはじめとした音楽が普段から流れる文化都市を目指していきたいものです。

福島市長 木幡 浩